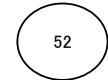


令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

筑前

高等学校



<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>生きる希望と学ぶ喜びにあふれた志の高い人材を育成する学校 言語活動の充実を図る「レクチャール活動」等の特色ある取組や、国際化や学術都市化が進む地域の特性を生かした教育活動を推進し、意欲的に学ぶたくましい人材の育成。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○言語に関する能力 ○将来目指す進路実現に必要な基礎的な知識及び技能 ○課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力 ○予測できない社会(Society5.0)を生き抜く力と他者と協働できる資質(豊かな人間力) ○人間関係形成・社会形成能力
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○筑前レクチャール活動(あさかつ・ビブリオバトル等)による言語活動の充実 ○主体的・対話的な深い学びの実践や課題探究活動による思考力・判断力・表現力の育成 ○オンライン教材(Google Educations、スタディサプリ等)を活用した個別最適な学びの実現 ○生徒が主体的に運営する部活動や学校行事・生徒会活動の充実 ○高大連携を通じたキャリア教育による、大学教育への円滑な接続
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に主体的・意欲的に取り組み、学校行事、部活動、ホームルーム活動、生徒会活動等に主体的に周りど協働して取り組む生徒

学校運営計画(4月)

学校運営方針			評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>【成果】 1 ICTの活用による授業改善と教育活動の充実 2 自己実現意欲の向上による進路実現 3 部活動や学校行事を通じた主体性の育成 4 「筑前レクチャール活動」に代表される言語活動の充実と思考力・判断力・表現力の向上 【課題】 1 自律的学習を促す魅力ある授業と学力の分析と分析結果活用による建設的な学力伸長 2 交通マナーや情報モラルの指導等による規範意識育成 3 探究活動や筑前レクチャール活動など本校の魅力ある教育活動のさらなる充実と改善</p>	<p>基礎学力及び思考力・判断力・表現力の向上</p> <p>人間関係形成・社会形成能力の育成</p> <p>教員の指導力、教職員の連携の強化</p>	<p>ICT機器等の活用による自律的学習の促進、主体的・対話的な授業の充実、思考力・判断力・表現力を養う授業および「筑前レクチャール活動」、「あさかつ」等の学校独自の取り組みの充実、調査の分析等を活用した「学習PDCA」の確立</p> <p>部活動や学校行事・生徒会活動の活性化および「あさかつ」の活用等により、体験を通して生徒の自己肯定感を高めるとともに、人間関係形成・社会形成能力を育成する。</p> <p>研修や自己研鑽により教科指導力及び教育相談力の向上に努める。教師自身が人権感覚を研ぎ澄まし、いじめを絶対にゆるさない雰囲気を醸成する。教育力向上のためにはチームワークが必須であることを共通認識とし、分掌・学年等の枠を越えた連携を深める。</p>	<p>A</p>

		自己評価				学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価 学校関係者評価委員会からの意見		
教務課	観別評価の充実と実践	観別評価の効果的な運用と実践(指導と評価の一体化)	・調査目標振り返りシート ⇒学習目標時間(1日平均)23分 ・授業アンケート(先生の説明) ⇒理解しやすい(十分・やや) 1~3学年の平均91%	B	B	観別評価の運用については次年度に向けた礎を創ることができた。次年度に向けて、学習評価が授業改善へつながるような仕組みを作るとともに、生徒の学力向上につながるようとする。	A 単元ごとに評価規準を設定して学習指導することで、指導と評価を一体化して、更なる授業改善に努めてほしい。		
		生徒が「気づく・分かる・できる」授業づくり(授業改善)	A						
		考査分析ツール(リアテンダント)等を活用した学習PDCAサイクルの構築	B						
	生徒主体となる授業づくりと学習習慣の確立	ALおよびICTを活用した主体的・対話的な深い学びの実践(実施率80%以上)	・授業アンケート(12/19 現在) ⇒ICT効果的活用率 90% ⇒対話的な学びの実現 84% ・スタサプ確認テスト取組 ⇒対前年比 873% (8倍) ・生徒出席率 ⇒97.5%	A	A	一人一台端末の利用を含めた、ICT機器(スタディサプリ等)の効果的な活用により個別最適な学びの実現につながることができた。しかしながら、対話的な学びの実現に向けてははや課題が残る結果となった。また、各学年・分掌と連携を図ることで、生徒の出席率はやや増加した。一方、転退学者の減少や不登校生徒の支援については課題が残ったため、次年度改善を図る。	ICT機器を活用したより効果的な学力向上の取組を今後とも継続してほしい。また不登校生徒への支援について、生徒支援課や教育専門職とも連携し、早期から組織的に取り組んでほしい。		
未来探究課	総合的な探究の時間(CSDs)の円滑な実施	各学年における目標設定と学校全体での目標の共有	「総合的な探究の時間」に関するアンケート(2学年実施) ⇒主体的に準備を行い、積極的に自分なりの発表をした(非常に・やや)62%	A	B	1年から2年につながる2か年計画を立て、3年での個別探究につながるよう実施できた。しかしながら、生徒の中には研修や講演会等を体験しても自身の興味・関心を見出すことができない生徒もいる。小さな気づきが自己発見のきっかけになる総探計画を、次年度も考える。	A 個別の生徒の興味・関心を喚起し、自身のキャリアプランを構築するために、今後多様な経験をさせる学びを提供することを期待する。		
		3年間を見通した探究活動の計画的な実践	A						
	筑前レクチュール活動の充実と図書館機能の充実	「あさかつ」時間の活用と充実	「あさかつ」に関するアンケート(2学年実施) ⇒あさかつの有効活用(非常に・やや)62% ・ピリオオバトルについて ⇒積極的に取り組んだ(非常に・やや)75% ・図書館活用状況 ⇒4月~12月までに利用した20%	A	A	「あさかつ」の活動内容を前月に各学年で見直すことで、目的意識をもってより有益な時間として活動することができた。ピリオオバトルについても主体的に取り組んでいるものの、まだ図書館の利用状況が極端に低いため、次年度に改善を図りたい。	学校行事や他の分掌と連携した図書館利用を行うなど、創意工夫をしてより開かれた図書館づくりを行うことで利用率の向上に努めてほしい。		
		適なかつ計画的な図書を選定・購入、「総合的な探究の時間」等に役立つ図書の重点整備	B	B	GoogleClassroomを活用することによる連絡の効率化	タブレット端末活用調査(1.2年対象)⇒毎日活用41%週3日以上44%	A	A	GoogleClassroomを活用することで、情報共有が効率的に行えるようになった。生徒のタブレット端末の使用頻度が多くなるとともに、端末の破損も増えている。また、充電キャビネットや電子黒板等を含め、経年劣化も見受けられ、今後の修理対応等が課題になる。
電子黒板やタブレットの管理の徹底、利用促進	A	A	ICT指導員と連携した活用についての情報発信	B	式典の確実な計画(1ヶ月前に計画、他分掌との連携強化)	B	A		式典は、感染症の拡大状況や機器の不調によって、その実施形式を対面にとりオンライン化したりして急な変更の必要があったが、それに柔軟に対応することができた。またPTAや同窓会との連絡調整も行うことができた。式典や芸術鑑賞は、臨機応変に変更に対応できるよう、早めの準備が必要である。
総務課	ICTを活用した教育の推進	式典の確実な計画(1ヶ月前に計画、他分掌との連携強化)	芸術鑑賞事後アンケート⇒満足度(4段階中上位2項目)約95%	A	A	突然の怪我や体調不良などの緊急時の対応を迅速に行うことができた。特に体育的行事の際には職員全体で生徒の観察に努めた。保健委員会を中心として生徒主体の活動として活性化できた。美化委員会は日々の清掃活動の徹底させるよう、引き続き呼びかけをしていきたい。		B 今後生徒が主体的となって自身の心身の健康管理や校内の環境整備に取り組めるように、生徒に寄り添った丁寧な指導・支援を継続してほしい。	
		生徒の感性をより一層育む芸術鑑賞の企画・運営	A	A	健康保持増進・安全・美化に対する意識の向上	生徒が主体的に健康の保持増進を行う資質や自己管理能力の育成 緊急時の救急措置や関係者への対応等の迅速な初期対応の徹底 分別リサイクル、ごみの削減等の指導や美化委員会活動の活性化	B A B		B
	円滑な式典の企画・運営	PTAや同窓会との確実な連絡・調整	A	A	健康保持増進・安全・美化に対する意識の向上	生徒が主体的に健康の保持増進を行う資質や自己管理能力の育成 緊急時の救急措置や関係者への対応等の迅速な初期対応の徹底 分別リサイクル、ごみの削減等の指導や美化委員会活動の活性化	B A B	B	
		健康保持増進・安全・美化に対する意識の向上	生徒が主体的に健康の保持増進を行う資質や自己管理能力の育成 緊急時の救急措置や関係者への対応等の迅速な初期対応の徹底 分別リサイクル、ごみの削減等の指導や美化委員会活動の活性化	B A B	B	今後生徒が主体的となって自身の心身の健康管理や校内の環境整備に取り組めるように、生徒に寄り添った丁寧な指導・支援を継続してほしい。			
生徒支援課	生徒支援体制の充実	保健室やSC・SSW等の外部組織と連携した組織的かつ適切な支援	・学校生活点検アンケート(毎月) ⇒実施100% ・保護者に対するアンケート「いじめの早期発見のための家庭用チェックリスト」実施100%	A		A	突然の怪我や体調不良などの緊急時の対応を迅速に行うことができた。特に体育的行事の際には職員全体で生徒の観察に努めた。保健委員会を中心として生徒主体の活動として活性化できた。美化委員会は日々の清掃活動の徹底させるよう、引き続き呼びかけをしていきたい。	B 今後生徒が主体的となって自身の心身の健康管理や校内の環境整備に取り組めるように、生徒に寄り添った丁寧な指導・支援を継続してほしい。	
		教育相談の活用を中心とした生徒の心に寄り添った支援の実施	B	SC・SSW等と連携し、支援を要する生徒・保護者の支援を行うことができた。また一部の教職員に負担が偏ることがないように、常に組織的に対応することに努めた。引き続き支援体制を強化し、個別の具体的な支援の方策を検討したい。	A				
		学校生活点検アンケート・いじめアンケート実施による早期発見・早期対応	A	SC・SSW等と連携し、支援を要する生徒・保護者の支援を行うことができた。また一部の教職員に負担が偏ることがないように、常に組織的に対応することに努めた。引き続き支援体制を強化し、個別の具体的な支援の方策を検討したい。	A				
生徒育成課	社会性、道徳性を身につけた生徒の育成	人権感覚を研ぎ澄まし、いじめを絶対に許さない雰囲気醸成	・学校生活点検アンケート(毎月) ⇒実施100% ・保護者に対するアンケート「いじめの早期発見のための家庭用チェックリスト」実施100%	B	B	突然の怪我や体調不良などの緊急時の対応を迅速に行うことができた。特に体育的行事の際には職員全体で生徒の観察に努めた。保健委員会を中心として生徒主体の活動として活性化できた。美化委員会は日々の清掃活動の徹底させるよう、引き続き呼びかけをしていきたい。	B 今後生徒が主体的となって自身の心身の健康管理や校内の環境整備に取り組めるように、生徒に寄り添った丁寧な指導・支援を継続してほしい。		
		登下校時の通学マナーの徹底による道徳性の涵養	B	学校生活点検アンケート・いじめアンケート実施による早期発見・早期対応		A			
		情報モラルに関する指導の推進と自己責任に関する意識付け	A	人権感覚を研ぎ澄まし、いじめを絶対に許さない雰囲気醸成		B			
	人間関係形成・社会形成能力の育成	行事や部活動への積極的参加での人間関係・社会形成能力の育成	部活動加入率(R6.5現在) 3年:74.7% 2年:83.6% 1年:93.2%	B A A	A	文武両道を図るうえで部活動の加入率が上がっている事は評価できると考える。また、体育祭や文化祭、クラスマッチ等の学校行事への満足度も高く、帰属意識も高まったと評価できる。	登下校の交通マナーにはまだ課題があり、放置すると大事故につながることもあり得る。生徒が主体的に考え、地域と話し合いを行い、自主的ルールを決めて実行する取組を更に推進してほしい。		
クラス・学年を基盤とした、安心できる場の構築	A	文武両道を図るうえで部活動の加入率が上がっている事は評価できると考える。また、体育祭や文化祭、クラスマッチ等の学校行事への満足度も高く、帰属意識も高まったと評価できる。	A						
自他の目標を互いに尊重し、各行事で挑戦と経験ができる場の設定	A	文武両道を図るうえで部活動の加入率が上がっている事は評価できると考える。また、体育祭や文化祭、クラスマッチ等の学校行事への満足度も高く、帰属意識も高まったと評価できる。	A						

様式3

キャリア形成課	生徒の進路実現に向けた組織的・計画的なキャリア支援	進路希望調査及び模試結果等のデータに基づく企画立案	進路希望調査 1学年: 国公立大希望者63% 2学年: 国公立大希望者58% 3学年: 国公立大希望者59%	A	A	A	進路希望調査及び模試結果等のデータ分析をすることで戦略的に対応できた。また、新課程入試についても計画的に対応できた。生徒が高い志をもって進路実現ができるように、今後も組織的・計画的な支援をしていきたい。	A	・今後も地域を代表する進学校として、個別の能力を最大化させ、高い志をもって個別の進路実現を実現できるよう指導・支援をしてもらいたい。	
		広い視野を持って進路選択ができるような進路指導の徹底		B						
		新課程入試に関する情報の収集と対応		A						
	主体的な学習を促すための進路指導計画の改善	筑前く夢>プロジェクトの運営における生徒による主体的活動の推進	進路希望調査 ・総合型選抜希望者 R5: 12.9%⇒R6: 13.4% ・学校推薦型選抜希望者 R5: 30.6%⇒R6: 36.5%	A	B		A	学校推薦型選抜及び総合型選抜を利用する生徒が急増しており、それに対応するための具体的な指導計画を打ち出す。特に1,2年生での早い段階での意識づけを行えるように組織的に取り組んでいく。	A	・未来探究課とも連携して個別最適な学びを展開し、自信をもって自身の進路を切り拓けるように支援してほしい。
		生徒の学力実態を把握し、生徒及び保護者が納得する進路実現の支援		B						
		ICTの活用による効果的なフォローアップ		B						
研修課	校内研修の充実及び相互授業参観の実施	他分掌と連携し、本校の課題に即した研修を年6回実施	・授業アンケート 年2回実施	A	A	B	校内研修は、講師招聘の研修も含め、年7回実施することができた。授業アンケートは2回実施・返却し、2回目には学年平均を追加して比較を行う工夫をした。授業参観シートの提出率が低いため、今後は参観しやすい環境づくりや、提出を促進する方法を検討する。	A	・生徒が理解しやすい授業づくりに取り組まれており、今後も教員同士が指導力を研鑽し、授業改善に努めてほしい。	
		相互授業参観や研究授業を活用した授業改善の推進	・授業参観シート 提出率50%	B						
		授業改善に有効な授業アンケートの実施		A						
	校外諸活動との連携	校外研修や異校種授業参観などの広報による参加の促進	・海外研修報告レポート 提出率100%	B	B		B	校外研修等の案内は学校ポータルを活用し、参加の呼び掛けを行うことができた。また、生徒の海外研修や卒業生の教育実習も確実に実施することができた。今後もこれらの取り組みを継続し、さらに充実した内容となるよう計画する。	B	・新しい研修システムであるPlantのプラットフォームを活用して、自身にとって最適な研修を受講し指導力の向上に努めてほしい。
		教育実習及びインターンシップの受入		B						
		生徒海外交流の実施		A						
広報課	広報活動の充実	効果的な進路相談事業や中学校及び塾訪問の立案	・第6学区公立高校説明会アンケート ⇒本校に個別相談をした来場者46.4% ⇒進路選択の参考になった来場者96.6% ・中学校体験入学参加者数 ⇒生徒573名、保護者等297名	A	B	B	校内外の説明会を実施し、積極的な広報活動を展開できた。各分掌や同窓会との連携がかみ合わず、業務を抱え込んだことが課題である。今後は連携を深め、多様な要請に応じた広報活動の充実を図りたい。	B	・筑前高校のよさが伝わる広報活動を、他の分掌等とも連携して組織力を高めて取り組んでほしい。	
		各分掌との連携による、説明内容の充実		B						
		同窓生との連携による、千里会との協力体制の強化		B						
	学校HPの円滑な運用と発信力の向上	各分掌・学年のCMS担当との連携による、HP更新頻度の増加	・公式Instagramフォロワー数 ⇒1,708名(1/15現在)	B	A		A	HPについては、内容を刷新し、Instagramを中心に積極的に情報を発信することで本校の魅力を伝えることができた。次年度は分掌・部活動との連携を高め、より具体的に魅力が伝わるように努めたい。	A	・HPやSNSを有効に活用して情報発信の頻度を高め、筑前高校の魅力がより伝わるように、他校の広報活動も参考にし、更なる創意工夫を期待したい。
		意見を収集し、内容の刷新		A						
		公式Youtube・Instagramによる積極的な情報発信		A						

様式3

第1学年	新たな環境へ順応し、充実した高校生活を送るための環境・関係づくり	学校中心の生活習慣を確立させ、気になる生徒は家庭と連携して早期対応	・自立と協働を学ぶ体験活動 振り返りシート ⇒学びがあった97% ⇒45期の重点目標の大切さを理解できた99%	A	A	A	気になる生徒について家庭と連携を早期に取ることができた。また、挨拶・時間の大切さを理解し行動できる生徒が多数いる一方、掃除については課題が残る結果だった。次年度改善していくとともにリーダー育成にも力を入れていく。	A	・1年次に3年間の高校生活の基礎を築くことで、向上心をもって主体的に諸課題の解決に取り組む若者の育成に努めてほしい。
		「自立と協働を学ぶ体験活動」を通じて、筑前生としての自覚を持たせ、充実した高校生活の素地を養う		A					
		挨拶・掃除の徹底を図り、学習環境の整備		B					
第1学年	基礎学力・学習習慣の定着と進路選択能力の育成	授業を中心とした学習習慣を定着させ、積極的な資格取得の奨励	・授業アンケート ⇒授業の予習・復習や自分に合った学習法が身につけている70%	B	B	A	課題提出については、概ねできており、資格取得に励む生徒も出てきたが、まだ少ない。次年度も継続して奨励し、増やしていく。また、学習面においても生活面においても自走できる生徒の育成に努めていく。	A	・今後もキャリア教育に創意工夫を凝らして生徒に主体的に自身の進路を切り拓く力の育成に努めてほしい。
		課題提出、小テストの合格に向けての準備を徹底させ、自主的な学習の習慣づけ	・進路希望調査 ⇒四年制大学98% (内訳:国公立63%、私立35%)	B					
		個人面談や総合的な探究の時間を充実させ、進路における視野と可能性の拡大化		A					
第2学年	何事にも全力で取り組み、たくましい生徒の育成	出席率99%、皆勤率50%以上を目指し、文武両道を体現する生徒を育成する。	・生徒出席率 ⇒98%(1/15 現在) ・皆勤率 ⇒23%(1/15 現在) ・次年度体育祭リーダー希望調査 ⇒50.6%	B	B	B	皆勤率が目標より低い状況になったため、体調管理も含め基本的な生活習慣の確立を促したい。学校行事を通して、少しずつリーダーを育成することができているため、次年度は最終学年として学校を引っ張る存在として活躍させる。全ての生徒が安全・安心に学校生活を過ごせるように、アンテナを張って教員間で連携を取り指導していきたい。	B	・生徒自身に心身の健康管理に努める習慣を形成させるとともに、夢と希望をもって自身の人生を切り拓く志の育成に努めてほしい。
		進路指導を充実させ、自らの可能性に挑戦する高い志を育む。	・進路希望調査 ⇒四年制大学 99% (内訳:国公立58%、私立41%)	A					
		上位者対策や各種推薦などに向けた指導の充実を図る。	・授業アンケート ⇒予習・復習等を含め、授業に対して努力をしている76%	B					
第2学年	進路実現のために主体的に行動する生徒の育成	進路指導を充実させ、自らの可能性に挑戦する高い志を育む。	・進路希望調査 ⇒四年制大学 99% (内訳:国公立58%、私立41%)	A	A	A	進路希望調査によると、例年通りであるが、自分の可能性を信じ、高い志をもった進路選択を促したい。第1志望校の合格を勝ち取るために、学力向上はもちろんのこと、これに加えて、各種推薦などに対する指導を強化し実践していく。	A	・自己の能力を最大化させるために妥協しない進路指導を展開してほしい。
		上位者対策や各種推薦などに向けた指導の充実を図る。		B					
		基礎学力を向上させるため、こつこつと学習を継続する姿勢を育成する。		A					
第3学年	主体的に考えた進路選択とその実現	個人面談の充実と最後まで諦めない進路選択を促す。	・進路希望調査 ・大学入試対策講座 ⇒申込率夏66%、冬41% 放課後bridge ⇒1学期73%、2学期45%	A	B	A	第1志望を最後まで目指すことを目標として、推薦入試に114名が受験した。夏・冬と大学入試対策講座の受講率が低迷しているのが課題である。塾の受講率や受験結果を分析し、新規の魅力ある企画で生徒の進路実現を図る必要がある。	A	・大学入試対策講座、Bridge講座の申込が向上する環境づくり、魅力ある講座づくりを期待したい。
		充実した日々の授業と大学入試対策講座(夏・冬・放課後)の充実。		B					
		各模試ごとの分析を充実化させ、適切な支援を行う。		B					
第3学年	リーダーシップの育成及び自立	行事におけるリーダーの育成と生徒による運営。	・体育祭リーダー立候補者 ⇒102名 26% ・学年集会において生徒の話 ⇒100%実施	A	A	A	体育祭で12年生に対し先輩が説明する取組み、学年集会での生徒進役、代表生徒の話などの企画を通してリーダーを育成できた。しかし、共通テスト時期の出席率が低下する課題が生じ、学校生活の大切さをより実感させる取組みの必要性を感じた。	A	・日本の地域社会に貢献しようとする利他精神で自身の進路実現に立ち向かえるように、生徒の心に響く指導・支援を期待したい。
		最上級生としての普段の学校生活態度の育成や出席率の向上。		B					
		学年集会を多用し、見つけ直す場を設ける。		A					
事務室	環境整備	人件費、物価の高騰に対し、予算を適切に執行し、校内の環境整備を行う。		B	B	A	本当に執行が必要なものを精査し、適切な学校運営のための予算を確保している。	A	・生徒の学校生活の充実のために今後も尽力してほしい。
		光熱水費の無駄を省き、室温、照度を適切に保つ		A					
		校納金、修学支援金等の事務手続きを適切に行う。		A					
事務室	適切な校納金等業務・窓口業務	校納金、修学支援金等の事務手続きを適切に行う。		A	A	A	保護者の経済的負担を軽減するために、関連情報を広く正確に周知して、負担軽減に努めている。	A	・経済的困難を抱える家庭を支援し、学習機会の保障に努めてほしい。
		窓口業務をわかりやすく、丁寧に行う。		B					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<p>・単元ごとに観点別評価を設定し指導と評価の一体化を図って授業改善に努めるとともに、ICT活用の充実を図ることで、本校における令和の日本型教育の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。</p> <p>・本校の「レクチュール活動」を通して言語活動の充実を図り論理的かつ批判的な思考力を伸長するとともに、校内外の多様な探究活動や地域ボランティア活動などを展開してキャリアの更なる充実を図ることで、論理的かつ批判的思考力の伸長と豊かな表現力の養成を行う。</p> <p>・学校行事などの集团的活動について、生徒実行委員会や生徒会を中心として生徒が主体的に取り組むことを通じて、自助と共助を学び、リーダーシップとフォローシップを育成する。また校則検討委員会や交通安全委員会などの活動を通して、近隣の地域住民や警察署職員などの地域との対話と交流の機会をもつことで、他を思いやり多様な他者と協働するための基盤としての自立心と公共心を育てる。</p> <p>・1.2年の(虹)プロジェクト、3年の大学入試対策のBridgeの講座の更なる魅力化・個別化を図ることで、生徒の申込と出席率を向上させる。また、本校の特色である《虹》プロジェクトなどの多様な進路企画を通して、高い志を育成するとともに個々の志望先の進路実現を図る。</p> <p>・HPやSNS等を活用して適時性のある情報を随時発信する。また地域社会との連携を強化することで地域から見える学校活動を目指す。</p>
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
現代日本の地域社会には非常に数多くの課題が山積しているが、その解決に向かって他者と協働しながら、主体的に考え行動する人材育成に努めてほしい。	